

運転装置

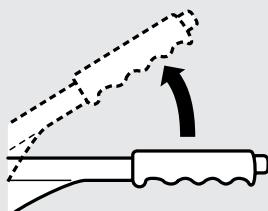
パーキングブレーキ	7- 2
ルームミラー	7- 3
ドアミラー	7- 3
サイドアンダーミラー	7- 4
リヤアンダーミラー	7- 5
エンジンスイッチ	7- 6
エンジンのかけ方	7- 7
ターボ車の取り扱い	7- 9
マニュアルトランスマッision	7- 9
オートマチックトランスマッision	7- 10
オートマチック車の運転のしかた	7- 14
4WD車	7- 18
4WD車の上手な運転	7- 20
4WD車取り扱い上の注意	7- 20
アンチロックブレーキシステム(ABS)	7- 22

パーキングブレーキ

J00700101001

かけるときは

ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。



AAA010837

7

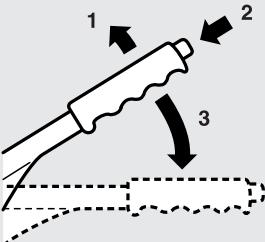
⚠ 注意

- 坂道に駐車するときはパーキングブレーキを確実にかけ、マニュアル車はシフトレバーを①または②、オートマチック車はセレクトレバーを③に入れしてください。
- パーキングブレーキをかけるときはブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてからパーキングブレーキレバーを引いてください。
車が動いているうちにパーキングブレーキレバーを引くと後輪がロックして車体姿勢が不安定になるおそれがあります。
また、パーキングブレーキの故障の原因になります。

解除するときは

1. ブレーキペダルを踏んだまま、レバーを少し引き上げ
2. ボタンを押したまま
3. 完全に戻します。

解除したときはメーター内のブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。



AAA010840

⚠ 注意

- パーキングブレーキをかけたまま運転するとブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなるとともにブレーキが故障する原因になります。

ルームミラー

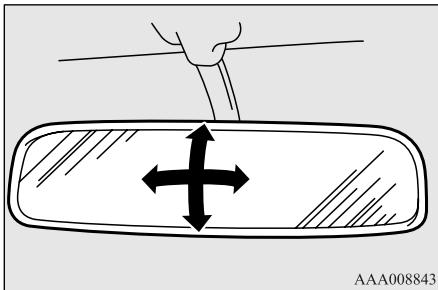
J00700300077

⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
走行中の調整は運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

ミラーの角度調整

ミラーの本体を上下左右に動かして角度を調整します。



ドアミラー

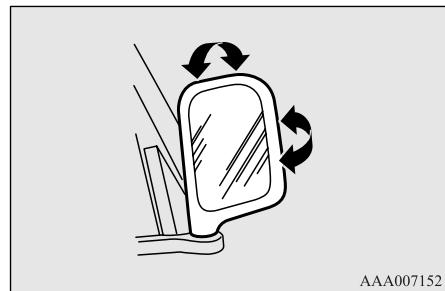
J00700500617

⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ドアミラーは凸面鏡を採用しています。
凸面鏡は平面鏡に比べ、物が遠くに見え、実際と距離感覚が異なりますので注意してください。

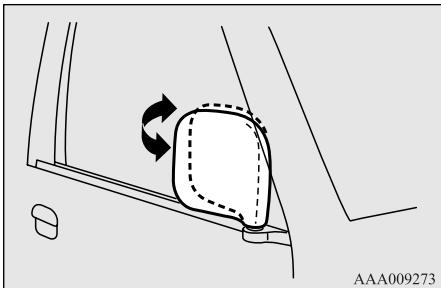
ミラーの角度調整

ミラー全体を動かして角度を調整します。



ドアミラーの格納・復帰

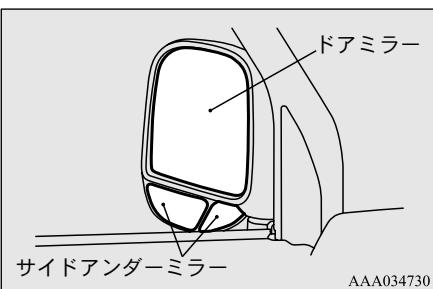
手でミラーを車両後方に倒して格納します。
戻すときは車両前方へ起こします。



サイドアンダーミラー

J00700600100

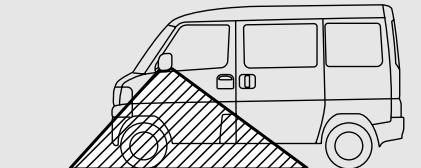
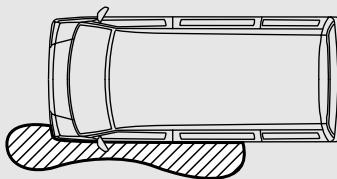
発進時またはごく低速時に助手席側の車両側面を確認するときに使用します。



△注意

- ミラーを倒したままで運転しないでください。ミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。

ミラーに映るおよその範囲



AAE001422

△注意

- 後方の確認はルームミラー、ドアミラーで行ってください。

⚠ 注意

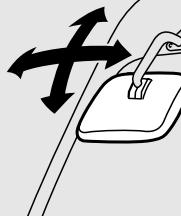
- 車の直前、後方および左斜め前方は運転席からでは十分に確認しにくい箇所です。駐車場などで前進または後退を行うときはミラーだけにたよらず、一度車から降りて周りの状況をよく確認して車を動かしてください。
- 信号待ちなどで一旦停止したときでも周りの状況に注意し、安全を十分に確認してから発進してください。

リヤアンダーミラー

タイプ別装備

J00700700039

ミラー本体を上下左右に動かして、後方の死角が十分確認できる位置に調整します。



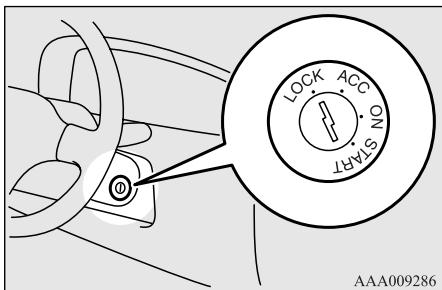
AAA009824

アドバイス

- 車をバックするときはミラーだけにたよらず、一度車から降りて周りの状況を確認してから車を動かしてください。

エンジンスイッチ

J00700800551



アドバイス

- エンジン停止時はエンジンスイッチをLOCKにしてください。エンジンスイッチをONまたはACCのままオーディオなどの電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こし、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- エンジンが回転しているときは、キーをSTARTの位置に回さないでください。スターターモーターが破損することがあります。
- キーがLOCKからACCに回らないときはハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回してください。

各位置の働き

7

LOCK
(ロック)

ハンドルがロックされる位置
キーを抜き差しきれます

ACC
(アクセサリー)

エンジンを止めたままでもオーディオ、シガーライターなどが使用できる位置

ON
(オン)

エンジン回転中の位置
すべての電気系統が働きます

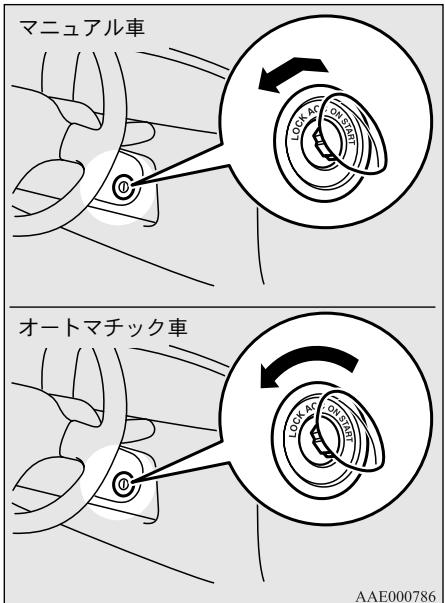
START
(スタート)

エンジンを始動する位置
エンジンがかかったらキーから手を離してください。自動的にONの位置へ戻ります

キーを抜くときは

J00706200137

LOCKまで回して抜きます。
マニュアル車はACCの位置でキーを押しながらLOCKまで回して抜いてください。



AAE000786

アドバイス

- オートマチック車はセレクトレバーがPでないとキーを抜くことはできません。

エンジンのかけ方

J0070091588

⚠️ 警告

- 車庫など周囲が囲まれた換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、ガス中毒になるおそれがあります。
- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ず日産販売会社で点検を受けてください。

⚠️ 注意

- 窓越しなど車外からエンジンをかけないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、高速走行を避けてできるだけ早く日産販売会社で点検を受けてください。
→「エンジン警告灯」P. 6-9

アドバイス

- バッテリー上がりやスターターモーターの故障を防ぐため、STARTにして10秒以上スターターモーターを回さないでください。10秒以上たってもエンジンがかからなかったときは、一旦キーをLOCKに戻し、2~3秒待ってから再度エンジンをかけてください。エンジンやスターターモーターが止まらないうちに始動の操作をくり返すと関連部品の故障の原因となります。
- エンジンが冷えているときや、再始動直後はエンジン保護のため高回転させたり、高速運転は避けてください。
- バッテリー交換後は、エンジンなど電子制御システムの学習内容が消去されるため、エンジン回転数が不安定になる場合があります。
エンジン回転数が不安定になったときは、エンジンの初期調整操作を行ってください。
→「バッテリー交換後にエンジン回転数が不安定になったときは！」P. 13-28

運転装置

1. 正しい運転姿勢をとります。

ブレーキペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるように、シート位置を調整します。

→「フロントシート」P. 5-4

2. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

3. マニュアル車はシフトレバーを**N**に入れてクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。オートマチック車はセレクトレバーが**P**にあることを確認します。

マニュアル車



オートマチック車



AAA052905

アドバイス

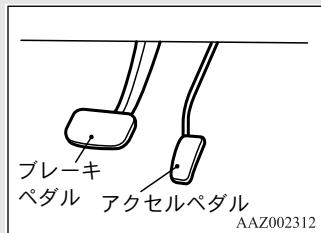
- オートマチック車はセレクトレバーが**P**または**N**以外ではエンジンがかかりません。
安全のため車輪が固定できる**P**でエンジンをかけてください。
- マニュアル車はクラッチ・スタートシステムが装着されています。

クラッチ・スタートシステムとは...
誤操作を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかからない装置です。

警告

- オートマチック車はアクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いを防ぐため、各ペダルの位置を右足で確認してください。

アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏んだり、両方のペダルを同時に踏んでしまうと、車が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。



アドバイス

- エンジンがかからないときはつぎの手順に従ってください。

[オートマチック車]

- ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを半分程度踏みながらエンジンをかけてください。
- エンジンがかかったらアクセルペダルをすみやかに戻してください。

[マニュアル車]

- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んだまま、アクセルペダルを半分程度踏みながらエンジンをかけてください。
- エンジンがかかったらアクセルペダルをすみやかに戻してください。
- エンジンがかかったあとはブレーキペダルを踏んでください。

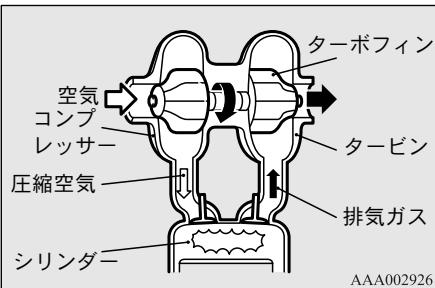
ターボ車の取り扱い

J00701200161

△注意

- エンジンをかけた直後は、空ぶかしや急加速などでエンジンを高回転させないでください。
- 高速走行または登坂走行をした後は、低速走行やアイドリング運転でターボが冷えるのを待ってからエンジンを止めてください。

ターボとは…



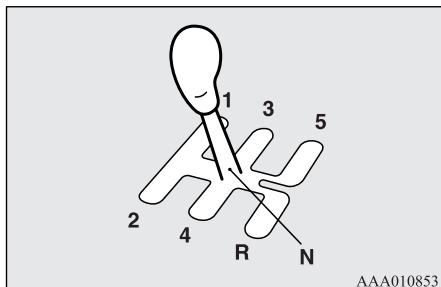
正式にはターボチャージャーといい、シリンダー内へ大量の空気を過給してより大きなパワーを引きだします。ターボフィンは超高速で回転し、高温下で使われ、潤滑はエンジンオイル、冷却はエンジンオイルと冷却水で行っています。エンジンオイルは定められた時期に交換しないとターボ軸受部の固着、異音の発生などの原因となります。

マニュアルトランスマッショ

J00701300045

シフトレバー

シフトレバーは必ずクラッチペダルをいっぱいに踏み込んでから操作してください。



7

△注意

- **R**に入れるときは車を完全に停止させてから行ってください。

アドバイス

- クラッチペダルに常に足をのせ、フットレストがわりにすることは避けてください。クラッチの早期摩耗、損傷の原因となります。
- ギヤが入りにくいときはクラッチペダルを踏み直すと楽になります。
- **5**→**R**へは直接入れることはできません。
一度**N**にしてから**R**へ入れてください。

変速位置とスピード範囲

J00706900277

エンジンを過回転させないため、各シフト位置での速度が下の表の数値を超えないようにしてください。

アドバイス

- 法定速度を守って走行してください。
- 各シフト位置の最低速度はノックングが発生しない速度で使用してください。

1速	2速	3速	4速
25 km/h	40 km/h	60 km/h	95 km/h

オートマチックトランスミッション

J00701900070

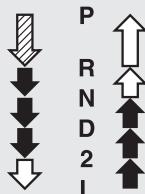
「安全なドライブのために：オートマチック車の取り扱い」も合わせてお読みください。→P. 2-13

セレクトレバーの動かし方

J00702000560



AAA052019



AAA052918

- ➡ ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
- ↓ ボタンを押さずに操作します。
- ▽ ボタンを押したまま操作します。

⚠ 警告

- ▽の操作は必ずボタンを押さずに行ってください。いつもボタンを押したまま操作すると誤ってP, R, Lに入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあります。
- セレクトレバーをN→DまたはN→Rに操作するときは、安全のため必ずブレーキペダルを右足で踏んだまま行ってください。絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。また、トランクミッションの故障の原因になります。

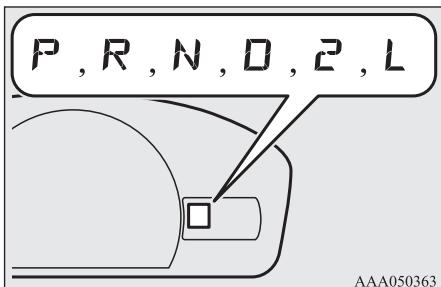
アドバイス

- ブレーキペダルを踏んでいないと、シフトロック装置が働いてPから他の位置に操作できません。また、キーがLOCK位置のときはブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に操作できません。
- ⚡ の操作はブレーキペダルを先に踏んでから行ってください。ブレーキペダルを踏む前に操作すると、セレクトレバーが動かなくなることがあります。
- DからR, RからDおよびPに入れるときはブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから入れてください。車が動いているうちにPやRに入れるとトランクミッションの故障の原因になります。

シフトポジションインジケーター

J00702200344

セレクトレバーの位置をメーター内に表示します。



AAA050363

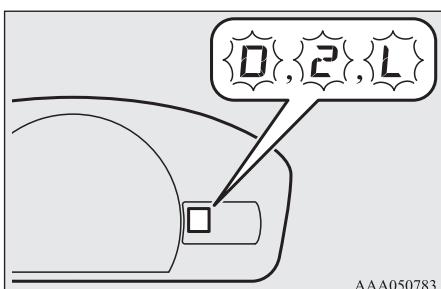
7

走行中にシフトポジションインジケーターが点滅したときは

J00712700124

4速オートマチック車

走行中にシフトポジションインジケーターが点滅したときはトランスミッショ nに何らかの異常が発生し、安全装置が働いていると考えられます。できるだけ早く日産販売会社で点検を受けてください。



AAA050783

アドバイス

- セレクトレバー位置がP, R, Nのとき、シフトポジションインジケーターは点滅しません。

セレクトレバーの位置・働き

J0070250034

P	(パーキング) 駐車およびエンジン をかけるとき	車輪が固定されます。駐車のときは必ず パーキングブレーキをかけて P に入れて ください。 P でのみエンジンスイッチからキーが抜 けます。
----------	--------------------------------	--

R	(リバース) 後退させるとき	R に入れるとブザーが鳴り、 R にあること を運転者に知らせます。
----------	-------------------	---

⚠ 注意

- ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。

7

N	(ニュートラル) 中立	動力が伝達されません。 この位置でもエンジンをかけることができますが安全のため P で行ってください。
----------	----------------	---

D	(ドライブ) 通常走行	発進から高速走行まで自動的に変速されます。 (1速から3速まで自動的に変速されます。 4速オートマチック車は、オーバードライブスイッチをONにすると1速から4速まで自動的に変速されます。)
----------	----------------	--

2	(セカンド) 下り坂走行	エンジンブレーキが必要なときに使います。 (1速から2速まで自動的に変速されます。)
----------	-----------------	---

L	(ロー) 急な下り坂走行	強力なエンジンブレーキが必要なときに使います。 (1速のままで変速されません。)
----------	-----------------	---

⚠ 警告

- ぬれた道路や凍結した道路では急激なエンジンブレーキは避けてください。スリップして重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンの過回転を防止するためオートマチックトランスミッションの制御が働き、セレクトレバーを**2**, **L**へ入れても変速しない場合があります。

オーバードライブスイッチ

J00702700105

4速オートマチック車

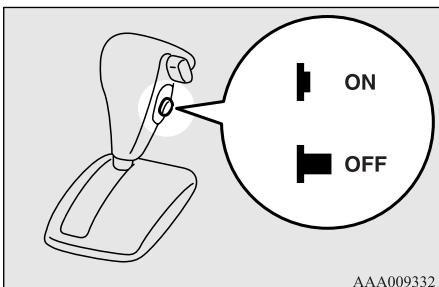
セレクトレバーが④のとき働きます。

◆ 通常走行

オーバードライブスイッチを ON にします。1速から4速まで自動変速し、燃費の良い経済的な走行ができます。

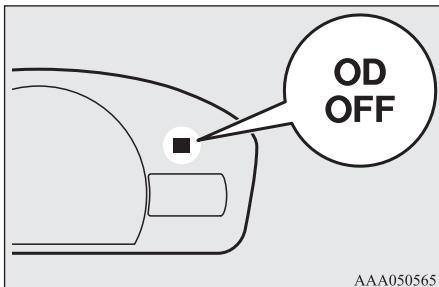
◆ 坡道走行

オーバードライブスイッチを OFF にします。1速から3速まで自動変速し、下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。



◆ 表示灯

オーバードライブスイッチを OFF になるとメーター内の表示灯が点灯します。



オートマチック車の運転のしかた

J00702901117

発進

1. ブレーキペダルを右足で踏みます。

⚠ 警告

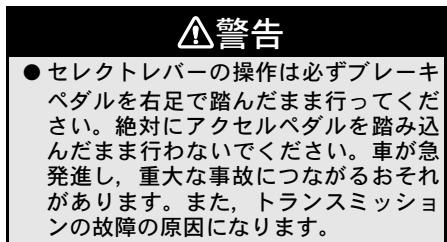
- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど適切な操作ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

- セレクトレバーを P, N 以外の位置(前进または後退の位置)に入れるとクリープ現象により、ブレーキペダルから足を離すとアクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。特にエアコン作動中などエンジン回転数が高くなるとクリープ現象が強くなりますので、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
→「クリープ現象」P. 2-13

2. セレクトレバーを前進は①、後退は②に入れます。



3. セレクトレバーの位置を確認します。

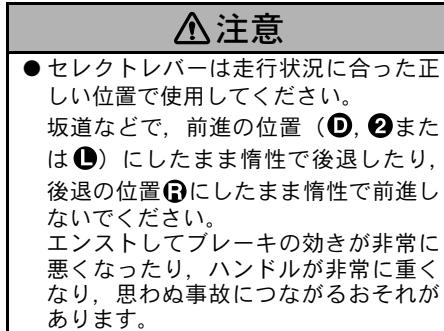
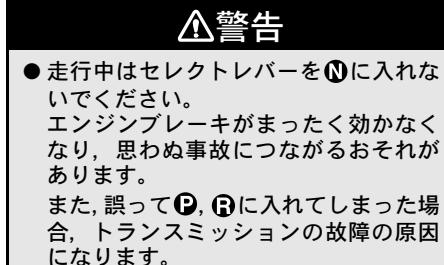


4. 周囲の安全を確認し、パーキングブレーキを解除します。
5. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくりと踏み込んで発進します。

◆ 急な上り坂での発進

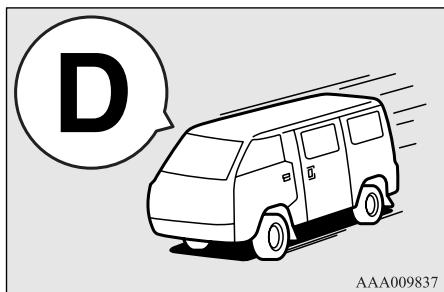
1. 車が動き出さないようパーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルから足を離します。
2. アクセルペダルをゆっくり踏みながら、車が動き出す感触を確認し、パーキングブレーキを解除して発進します。

走行



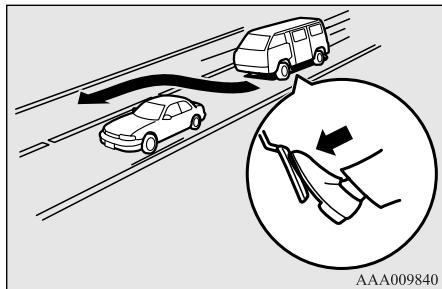
◆ 通常走行

セレクトレバーを①で走行します。発進するとスピードに応じて自動的に変速されます。



◆ 急加速したいとき

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的に変速比が切り換わって急加速ができます。これをキックダウンといいます。



アドバイス

- 4速オートマチック車はオーバードライブスイッチをOFFにすることで軽いエンジンブレーキが得られます。高速道路の長い下り坂などに有効です。「オーバードライブスイッチ」→P. 7-14

◆ 特に急な下り坂走行

強力なエンジンブレーキが必要なときは①に入れます。

⚠ 警告

- 急激なエンジンブレーキをかけるとタイヤがスリップして重大な事故につながるおそれがあります。

7

◆ 上り坂走行

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジン回転が上がることがあります。このようなときは、あらかじめ②にしておくと、変速回数が少なくなり、なめらかな走行ができます。

◆ 下り坂走行

セレクトレバーを②に入れてエンジンブレーキを使います。

長い下り坂でフットブレーキのみを多く使用すると、ベーパロックやフェード現象を起こし、ブレーキの効きが悪くなることがあります。必ずエンジンブレーキを併用してください。

→「ベーパロック」P. 2-10

→「フェード現象」P. 2-10

⚠ 警告

- 急激なエンジンブレーキをかけるとタイヤがスリップして重大な事故につながるおそれがあります。

停車

- セレクトレバーは**D**のままブレーキペダルをしっかりと踏みます。

⚠ 注意

- エアコン作動時などは、自動的にエンジン回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

- 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。

⚠ 注意

- 急な上り坂ではクリープ現象が働いても、車が後退することがあります。停止時はブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキングブレーキをかけてください。
- 上り坂でブレーキペダルを踏まずに、アクセルペダルを踏みながら停止状態を保つことはしないでください。トランスマッisionの故障の原因になります。

- 渋滞などで停車時間が長くなりそうなときはセレクトレバーを**N**に入れます。

⚠ 注意

- 停車中はむやみに空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが**P**, **N**以外に入っていると思わぬ急発進の原因になります。

- 再発進するときは、セレクトレバーが**D**位置にあることを確認してから発進してください。

駐車

- 車を完全に止めます。
- ブレーキペダルを踏んだままパークリングブレーキを確実にかけます。
- セレクトレバーを**P**に入れます。

⚠ 注意

- P**では車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には必ずセレクトレバーが**P**に入っていることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちに**P**に入れると、急停止してけがをするおそれがあります。また、トランスマッisionの故障の原因になります。

BOOK アドバイス

- 坂道では、パーキングブレーキをかける前にセレクトレバーを**P**に入れると、発進時のセレクトレバー操作が重くなることがあります。

- エンジンを止めます。

⚠ 注意

- 車から離れるときは必ずエンジンを止め、キーを抜いてください。エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーが**P**以外に入っていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

4WD車

J00707500036

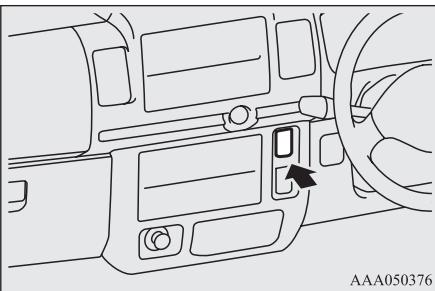
走行状況に合わせて駆動方式を切り換えることができます。

- [2WD]**- 一般道路や高速道路を走行するときに使用します。
- [4WD]**- 悪路、砂地、雪道など滑りやすい路面を走行するときに使用します。

4WD切り換えスイッチ

J00709200170

4WD 切り換えスイッチを押すごとに、2WD（後輪駆動）と4WD（4輪駆動）に切り換えることができます。

**[2WD]↔[4WD]**

走行中でも停車中でも操作できます。走行中操作するときは車を直進状態にして、アクセルペダルをゆるめてから操作します。

△ 注意

- 乾いた舗装道路および高速道路では、絶対に4WD（4輪駆動）で走行しないでください。
燃料の消費量が多くなったり、騒音、タイヤの早期摩耗を発生することがあります。
また、駆動系部品に無理がかかり、オイル漏れや焼きつきなどの重大な故障の原因となるおそれがあります。必ず2WD（後輪駆動）で走行してください。
- 雪道などで後輪を空転させたまま、4WD切り換えスイッチを操作しないでください。

 アドバイス

- 走行中の2WD（後輪駆動）と4WD（4輪駆動）の切り替えは時速80km/h以下で行ってください。
また、走行中はつぎのことについて注意してください。
 - ・低温時に、2WD（後輪駆動）で走り始めすぐに4WD切り替えスイッチを操作すると4WD（4輪駆動）に切り換わらないことがあります。この場合、車を直進状態にしてしばらく徐行し、4WD作動表示灯が点灯したことを確認してから通常走行してください。
 - ・4WD（4輪駆動）で走行中にハンドルを切ったまま4WD切り替えスイッチを操作すると2WD（後輪駆動）に切り換わらないことがあります。この場合は、ハンドルを直進状態にして、アクセルペダルをゆるめると2WD（後輪駆動）に切り換わります。
- 4WD切り替え装置の動きを円滑にするために、月に1回程度つぎの方法で2WD（後輪駆動）と4WD（4輪駆動）が切り換わることを確認してください。
 - 1.周囲の安全を確認します。
 - 2.直進状態で4WD切り替えスイッチをONにしてしばらく徐行し、4WD作動表示灯が点灯することを確認します。
 - 3.その後、4WD切り替えスイッチをOFFにしてしばらく徐行し、4WD作動表示灯が消灯することを確認します。
この操作を数回行ってください。

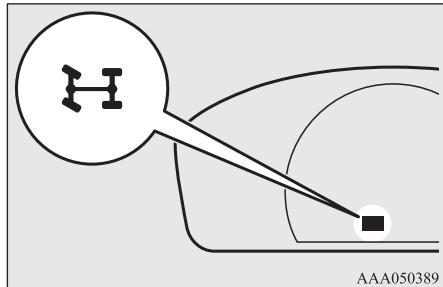
4WD作動表示灯が点灯しないときは、4WD切り替えスイッチをOFFにして、できるだけ早く日産販売会社で点検を受けてください。

4WD作動表示灯

J00707800169

エンジンスイッチがONのとき、メーター内の4WD作動表示灯にトランスファーの切り替え状態を表示します。

4WD（4輪駆動）のときは点灯し、2WD（後輪駆動）のときは消灯します。



AAA050389

7

 アドバイス

- 4WD切り替えスイッチをONにしても4WD作動表示灯が点灯しないときは車を直進状態にしてしばらく徐行し、4WD作動表示灯が点灯したことを確認してから通常走行してください。
直進状態にしてしばらく徐行しても、4WD作動表示灯が点灯しないときは、4WD切り替えスイッチをOFFにして、できるだけ早く日産販売会社で点検を受けてください。
- 4WD切り替えスイッチをOFFにしても4WD作動表示灯が消灯しないときは周囲の安全を確認して加速、減速または後退を行い、4WD作動表示灯が消灯したことを確認してから走行してください。
加速、減速または後退を行っても4WD作動表示灯が点灯したままのときは、4WD切り替えスイッチをOFFにしたまま、できるだけ早く日産販売会社で点検を受けてください。

4WD車の上手な運転

J00707400237

4WD車といつてもどこでも走れるわけではありません。

2WD車と同様、ハンドル・ブレーキ操作を慎重に行い安全運転を心がけてください。

△注意

- オンロード専用車です。無理な運転はしないでください。
 - ・オフロード走行は避けてください。
 - ・渡河などの水中走行はしないでください。
 - ・ブレーキ性能は 2WD 車とあまり差はありません。極端な急ハンドル、急ブレーキは避けて十分な車間距離をとって走行してください。

砂地やぬかるみなどにはまつたときは

むやみにタイヤを空転させないでください。タイヤがもぐり込み、かえって脱出しにくくなります。

→「こんなことでお困りのときは!—タイヤがスリップして発進できない」P. 13-7

△注意

- 砂地では無理な走行をしないでください。一般道路に比べてエンジンや駆動系部品への負担が大きくなり、思いがけない故障の原因になります。
- 走行中に高水温警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して処置してください。
→「オーバーヒートしたときは！」
P. 13-24

4WD車取り扱い上の注意

J00706600867

乾燥した舗装道路を走行するときは

△注意

- 乾いた舗装道路は 2WD（後輪駆動）で走行してください。
特に、乾いた高速道路は絶対に 4WD（4 輪駆動）で走行しないでください。
乾いた舗装道路を 4WD（4 輪駆動）で走行すると燃料の消費量が多くなり、騒音、タイヤの早期摩耗を発生することがあります。
また、駆動系部品に無理がかかり、オイル漏れや焼き付きなどの重大な故障の原因となるおそれがあります。
必ず 2WD（後輪駆動）で走行してください。

急なカーブを回るときは

4輪駆動時に、急なカーブを低速で旋回した場合、ブレーキをかけた状態と同じような現象が発生することがあります。
これはタイトコーナーブレーキング現象と呼ばれているもので、前、後輪のタイヤの軌跡（回転差）が違うために生じる4輪駆動車特有の現象です。

このような現象が発生したときには、ハンドルを直進状態に戻すか後輪駆動に切り換えることによって解消することができます。

△注意

- 急旋回したときは、タイトコーナーブレーキング現象を起こし、運転しにくくなりますので、急な旋回は避けてください。

タイヤ、ホイールについて

4WD車は4輪に駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。タイヤには細心の注意をしてください。

- 4輪とも指定のタイヤ、ホイールを装着してください。
→「タイヤ、ホイールのサイズ」P. 14-8
- タイヤ、ホイールを交換するときは4輪とも交換してください。
- タイヤのローテーションは5,000kmごとに行ってください。
→「タイヤローテーション」P. 11-4
- タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
→「タイヤの空気圧」P. 14-9

△ 注意

- 同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使用してください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、駆動系部品に無理がかかり、オイル漏れや焼き付きなどの重大な故障となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
車種によっては、前後輪のタイヤが異なる場合があります。交換するときは装着してある元のタイヤと同じサイズのタイヤを使用してください。

けん引について

アドバイス

- レッカー車による搬送は、別冊の「メンテナンスノート」を見て日産販売会社へ依頼してください。

4WD切り換えスイッチを操作して2WD(後輪駆動)に切り換えてけん引してください。

- 「4WD切り換えスイッチ」P. 7-18
- 「けん引」P. 13-26

△ 注意

- 2WD(後輪駆動)に切り換わらないとき、トランスミッションオイルが不足しているとき、トランスミッションが故障したときは、必ず4輪とも持ち上げてレッカー車で搬送してください。
- オートマチック車のけん引される速度は30km/h以下、けん引される距離は30km以内にしてください。

ジャッキアップするときは

△注意

- ジャッキアップ中はエンジンをかけたり、ジャッキアップした車輪を回転させたりしないでください。
接地しているタイヤが回ってジャッキから車体が外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルを操作するときは

エンジンの回転が高いときクラッチを急に接続したり、中途半端な踏み方をすると、けん引力が大きいのでクラッチやトランスマッションなどを損傷させるおそれがあります。

ペダルの操作はゆっくりと確実に行ってください。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

タイプ別装備

J00703000714

アンチロックブレーキシステム (ABS) とは、急ブレーキや滑りやすい道路でブレーキを踏んだときに車輪のロックを防止し、制動力を維持し、かつ安定した車体姿勢とハンドル操舵性を保つ装置です。

△注意

- ABS は制動時の車体安定性を確保するためのもので必ずしも制動距離が短くなるとはかぎりません。ABS を過信せず、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。
- 雪道を走行したあとは足まわりに付いた雪や泥を取り除いてください。足まわりを清掃するときはホイール付近に付いている車速感知装置や配線などを傷付けないよう十分注意してください。
- 4輪とも同一サイズ、同一種類の指定タイヤを装着してください。
サイズや、種類の異なるタイヤを混用すると、ABS が正常に作動しなくなるおそれがあります。(車載の応急用スペアタイヤは使用できます。)
- 市販のリミテッドスリップディファレンシャル (LSD) を装着しないでください。ABS が正常に作動しなくなるおそれがあります。

 アドバイス

- つぎのような場合は、ABS の付いていない車に比べて制動距離が長くなることがありますので、速度はひかえめにし、車間距離を十分とって運転してください。
 - ・砂利道や深い新雪路を走行するとき
 - ・タイヤチェーンを装着しているとき
 - ・道路の継ぎ目や段差を乗り越えるとき
 - ・凸凹道などの悪路を走行するとき
- マンホール、工事用の鉄板、白線の上、段差を乗り越えるときなど、車輪が滑りやすい状況では、車輪のロックを防止するため急制動以外でもABSが作動することがあります。
- ABSが作動すると車体、ハンドル、ブレーキペダルに振動を感じたり、作動音が聞こえます。
また、ブレーキペダルを踏み込んだときに固く感じことがあります。
これは装置が正常に作動していることを示すもので異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- 走行開始後、エンジルーム内よりモーター音がしたり、ブレーキペダルにショックを感じることがありますが、これはABS装置の作動をチェックしているため異常ではありません。
- ABSは、発進後車速が約10km/hになると作動しません。また、車速が約5km/hまで下がると作動を停止します。

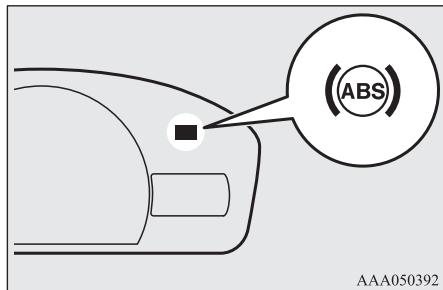
ABS警告灯

J00704500820

正常なときは、エンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

 注意

- 点灯したままのときまたは点灯しないときは装置の故障が考えられますので日産販売会社で点検を受けてください。



走行中に警告灯が点灯したときは

J00704600052

- 安全な場所に車を止めてから、エンジンを停止し、再度エンジンをかけます。その後しばらく走行して点灯しなければ異常ありません。

しばらく走行しても点灯したままのときは日産販売会社で点検を受けてください。この場合、ABSは作動せず、普通のブレーキとして作動します。

- バッテリーが電圧不足のときにエンジンをかけると、警告灯が点灯することがありますがABSの故障ではありません。このようなときは、しばらくアイドリング回転でバッテリーを充電してください。

充電しても点灯したままのときや、たびたび点灯するときは日産販売会社で点検を受けてください。